

「BCP対策としての電力確保」 — 株式会社ぐるなび様 —

災害時や停電。いかなる場合にも企業が事業を継続していくために、
FDKのコンパクトな蓄電システム「FPSS-252G」は、最小限の備えで大きな効果を発揮する。

FDKの蓄電システムFPSSシリーズ「FPSS-252G」は長寿命と安全性が高いニッケル水素電池を採用している。ニッケル水素電池は、高い安全性や耐久性が求められるハイブリッドカーに最も多く採用されており、今後企業や自治体などでは災害時用補助電源としても活躍が期待されている。

株式会社ぐるなび様では、非常時に備え、電力喪失後の数時間をカバーするための非常用電源としてFPSS-252Gを導入。いかなる場合にも事業を継続するための環境づくりを進めている。



株式会社ぐるなび
管理本部 総務部門
総務グループ シニアリーダー
松本 諭氏



株式会社ぐるなび
管理本部 総務部門
総務グループ
木田 道男氏

震災経験が決定づけた BCPの方向性。

株式会社ぐるなび様は、食に関するポータルサイトの草分けとして、飲食店検索はもとよりグルメECサイトやウェディング情報検索サイト、レジャー情報検索サイトなど、1989年の設立以来日々新たなサービスを生み出している。特に主要サービスの「ぐるなび」においては、10代~20代のデジタルネイティブはもちろん30~40代のビジネスユーザーや知識豊富な食通に至るまで大きな支持を集めており、飲食店選びにぐるなびを活用するのは、今や当たり前といっても過言ではない。そのような情報産業の担い手として、ユーザーへ情報提供し続けるために欠かせない対策のひとつがBCP(事業継続計画=business continuity plan)だ。

いかなる場合にも事業を継続させるためには、企業の情報システムを遮断しないための電力供給が必須。停電時にも最低限の電力をまかなうことは、ぐるなび様にとっても重要な事項となる。東日本大震災の経験から、災害対策では補助電源の確保を最優先で考えた、同社 管理本部 総務部門 総務グループの木田道男氏は語る。

「3.11以前からバックアップ電源の確保は意識していましたが、やはり東日本大震災は決定的でした。震災以降、発電システムのないオフィスビルで、どのように電力を確保するかを考えたうえでベストな製品を見つけたと思っています」

導入ポイントは長期間使用可能な ニッケル水素電池の性能。

一般的なオフィスビルの多くは、本格的な自家発電の設備を備えていない。非常時には自前で電力を確保しなければならないが、当然ビル内では排ガスを伴う内燃力発電をすることができない。そこでぐるなび様ではクリーンな蓄電システムに注目した。

電池というと、パソコンやスマートフォンで使われるリチウムイオン電池の知名度が高い。しかしリチウムイオン電池は容量劣化がマイナスポイントとなるのは周知の事実だ。携帯電話が2年も経過すると電池の減りが早いと感じるのと同じ理屈である。つまりリチウムイオン電池の性能では、いつ起こるかかわからない災害に対応できない恐れがある。そこで注目したのがニッケル水素電池による蓄電システムである。

「災害などの非常事態は、いつ起こるかかわからないからこそ長期間使用可能な蓄電システムが必要でした」(木田氏)

同社が導入した蓄電システムFPSSシリーズ「FPSS-252G」はニッケル水素電池を採用している。ニッケル水素電池の特長のひとつは長寿命。他形式の電池と比較しても容量の劣化が少なく10年ほどは十分に繰り返し使用が可能といわれ、さらにFDK独自開発の電池寿命予測技術により高い精度で電池寿命を予測することもできる。

安全性と扱いやすさも導入メリット。 どこでも使える安心感。

「いざという時、誰でも簡単に使えるということも魅力ですね」

そう語るのは、同社 管理本部 総務部門 総務グループ シニアリーダーの松本 諭氏。コンセントに差すだけの使いやすさや、キャスター付きで必要な場所へ簡単に設置できる取り回しのしやすさもオフィスで使用する場合の利点だという。



いざというときに備えるFPSS-252G。現在、ぐるなび本社の備蓄倉庫に2台が設置されている。

USER PROFILE

株式会社ぐるなび

本社：東京都千代田区有楽町1-2-2 東宝日比谷ビル6F
 会社設立：1989年10月2日
 代表者：代表取締役社長 久保 征一郎
 資本金：2,334百万円（2013年12月31日現在）
 従業員数：単体1,316名 連結1,390名（2013年3月31日現在）
 事業概要：パソコン・携帯電話などによる飲食店の
 インターネット検索サービスその他関連する事業
 URL：http://www.gnavi.co.jp/company/



ぐるなび

FPSS-252G



バックアップ時、ノートパソコンなら
10台を約7~8時間稼働する電力を供給。

また、ニッケル水素電池はハイブリッドカーに採用される安全性の高さでも知られており、カドミウムや鉛を含まないので環境負荷が低いのもポイントだ。

さらに温度差に強いという利点も挙げられる。-10°Cの低温から高温50°Cの環境下でも充放電ができるため設置場所を選ばないうえ、日本全国で使用可能。例えば、同社のように北海道から沖縄まで営業所がある場合、どの営業所に導入しても問題なく利用できる。そのような意味でも“誰でもどこでも使える”という安心感は重要といえるだろう。

非常時以外の活用の可能性、 イベントの補助電源としても検討。

同社では現在、本社にFPSS-252Gを計4台導入し、非常時に備えている。しかし、災害などの非常時に備えるだけではもったいない、と木田氏はいう。

「例えばパソコン20~30台のキッキング(ソフトウェアのインストールやネットワーク設定など)をする場合の電力不足。FPSS-252Gならすぐに運んで電力を補うことができそうですね」

古くなったパソコンの切り替えや、社員が入社したときのパソコンの立ち上げなどで、多数の端末を同時に作動させる必要がある。そのような電力を必要とする場面で蓄電システムが有効となる。足りない電力を補うだけの能力を保持しているからだ。

他にも、同社ではこれまでにイベントで照明が必要な場合などの電源確保に苦労したことがあるという。充電済みのFPSS-252Gであれば移動して電源プラグを差し込むだけなのでどのよ

うな電気機器も利用可能だ。しかも幅28センチメートル、高さ×奥行それぞれ63センチメートルというコンパクトサイズで机の下に設置でき、場所をとらないメリットもある。イベントでの活用に期待が高まっている。

あるのが当たり前、となるのが 蓄電システムの理想のカタチ。

導入した蓄電システム、FPSS-252Gを松本氏は「空気のような存在」という。安全安心、メンテナンスも簡単という利便性。普段は意識しなくとも、緊急時に能力を発揮してくれるFPSS-252Gは、“空気のようにあって当たり前”といえるのだろう。

「事業の継続を確保するには、社員のために、何が起きてもパソコンやスマートフォンなどのコミュニケーションインフラを整備しておく必要があります。その一翼を蓄電システムは担ってくれていると思います。いざという時の安心感ですね。FPSS-252Gにはそれぐらいの信頼を寄せています」(松本氏)

蓄電システムによる企業のBCP対策。災害などの非常時、停電が起きたとしても事業を継続するための電力を賅う備え。株式会社ぐるなび様は、いかなる場合にも“当たり前”に電力供給する仕組みを構築し、これからも新たなサービスを提供していく。

富士通グループ

FDK株式会社

http://www.fdk.co.jp

〒105-8677 東京都港区新橋5-36-11(浜ゴムビル)

TEL : 03-3437-2961 FAX : 03-3434-1017

お問い合わせ